

2007年4月新文化学部スタート記念

札幌大学特別展「巨大石器と黒曜石」紀伊國屋書店札幌本店にて開催

～世界最大級の旧石器製造センター！ 白滝幌加沢遺跡を掘る～

札幌大学埋蔵文化展示室では10月12日（木）～22日（日）、札幌大学特別展「巨大石器と黒曜石」～世界最大級の旧石器製造センター！ 白滝幌加沢遺跡を掘る～を紀伊國屋書店札幌本店2階イベントスペースにて開催します。展示品は約300点を予定しています。

北海道の文化について近年最も注目されている先史文化の研究において今までの定説や常識を打ち破る多数の新たな発見が相次いでいます。紋別管内遠軽町白滝に所在する赤石山は良質で豊富な黒曜石を産する世界有数の石材原産地で、特に白滝幌加沢遺跡遠間地点については、山頂部の黒曜石を搬入し、石材の加工をしていた旧石器時代（25000～10000年前）の大規模な「石器製作址」で世界的にも極めて稀な遺跡です。資料は「遠間コレクション」として遠軽町先史資料館に収蔵・展示され、北海道の有形文化財の指定を受けています。

札幌大学埋蔵文化展示室ではこの赤石山の中腹に立地する白滝幌加沢遺跡遠間地点の考古学的発掘調査を1987年以来、今日まで14次にわたって継続的に行ってきた結果、50万点を超す石器類が出土し、世界的規模の「石器製作址」の実態が解明されつつあります。この黒曜石石器がサハリンや道央、道南にまで運ばれていたことも判明してきています。現在も調査の途中にありますが、今回はその調査で発掘した出土品を展示し、その研究成果を紹介します。あわせて遠軽町先史資料館と財団法人北海道埋蔵文化センターの協力を得て、発見の契機となった遠軽町先史資料館に所蔵されている門外不出の北海道指定の有形文化財である「遠間コレクション」槍先形黒曜石製石器など約30点、財団法人北海道埋蔵文化センター所蔵の巨大な黒曜石製石刃、石核と石刃の接合資料など約5点も展示します。

また、関連して、シベリアや韓国出土の同じ時代の資料である貴重なマンモスの牙や体毛、マンモス象牙製女性像（複製）、ヘアーバンド（複製）、骨製針（複製）など、日本で目にすることのできない貴重な資料も展示します。

日時：10月12日（木）～22日（日）

時間：10：00～21：00

場所：紀伊國屋書店 札幌本店 2階イベントスペース

入場無料

主催：札幌大学

後援：北海道教育委員会、遠軽町教育委員会、財団法人 北海道埋蔵文化財センター

問合せ先：札幌大学 埋蔵文化財展示室 011-852-9182

【白滝幌加沢遺跡遠間地点と「遠間コレクション」について】

日本の旧石器研究が開始されてまもなくの1954年、青函連絡船・洞爺丸の沈没で知られる15号台風が北上し、民家や自然林がなぎ倒され、記録的な被害をもたらした。白滝幌加沢遺跡遠間地点の発見は、山林の調査にあたった白滝営林署の作業員が、風倒木の下から30cmを超す巨大な黒曜石製の両面加工石器を発見したことに始まる。かねてから石器に興味を抱いていた遠軽町在住の遠間栄治氏に伝えられたことが幸いし、その後多くの資料が集められた。これが「遠間コレクション」です。

